

# 文書館通信

12号

東御市文書館

令和4年

2月 発行

☎ 文書館直通 0268-67-3312  
東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717  
✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

2月と言えば、東御市滋野乙にある戌立（いんだて）遺跡の一部が、長野県で初めて国指定史跡「戌立石器時代住居跡」として昭和8年2月28日に指定されています。

そこで、東御市文書館で所蔵する資料から改めて判った内容をご紹介します。

## 【保護屋蓋（ほごやがい〈ふた〉）の費用について】

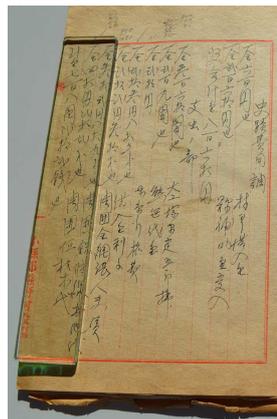
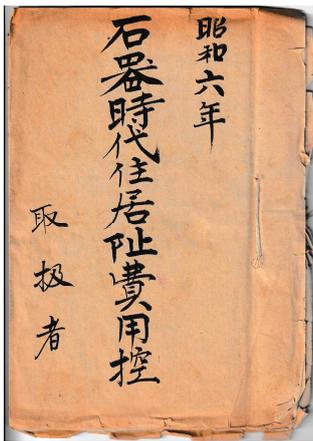
昭和5年12月に、戌立遺跡と寺ノ浦遺跡（注1）の発掘調査区域を保護する目的で、調査区全体に覆い屋根を掛けました。

縄文時代をしのぼせる造りにしようと、アイヌなどの民俗事例を参考にして作られたと言われ、日本で最初の縄文時代の屋根を想像した事例として、当時建築学会でも紹介されました。その保護屋蓋ですが、村の青年団や有志によりボランティアで作られたと言われていましたが、東御市文書館所蔵の「滋野村役場資料」より、大工職人を頼み、屋根の熊笹も購入して作られていたことが判明しました。



昭和5年戌立遺跡保護屋蓋設備 東御市文書館展示写真

3棟分の住居跡を覆う、52坪の調査区に掛けられた保護屋蓋屋根は茅葺ではなく、熊笹を購入して葺いてあります。

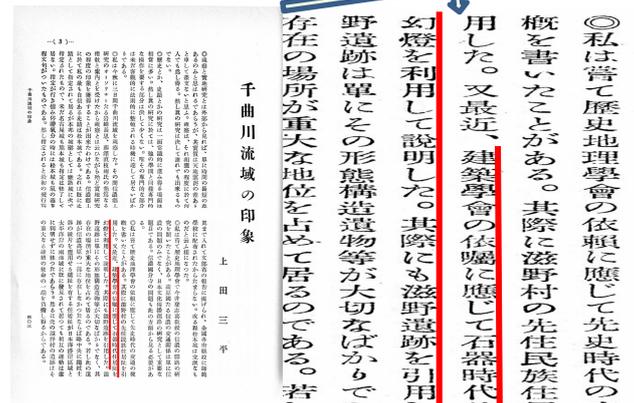


### 滋野村役場資料 第2期分 目録No.2105

支出ノ部

- 一 金参百六拾圓也 大工 塚原定五郎様
- 一 貳百九圓也 熊笹代金

の記載が確認できます。



上田三平氏は、当時国の史蹟調査官に任命されており、戌立遺跡が国指定史蹟に値すると、最終評価を下した人物です。

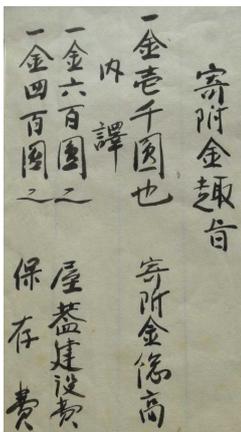
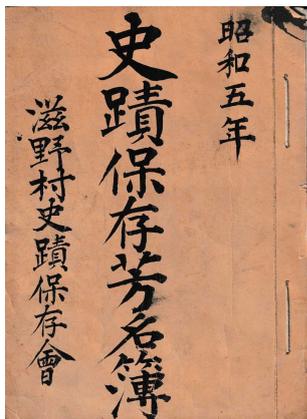
1932上田三平「千曲川流域の印象」『信濃』I・1-12より

※戌立遺跡は当時、滋野遺跡と通称されていました。

注1) 当時、滋野村にあった寺ノ浦（てらのうら）遺跡（現小諸市）も、戌立遺跡と同時に国の史蹟に指定されています。

## 【寄附金で保存された戌立遺跡】

ボランティアにより、資材も持ち寄りで作られたと伝えられていた保護屋蓋施設ですが、写真の戌立遺跡保護屋蓋と、寺ノ浦遺跡にも建てられた保護屋蓋は、28名の有志による寄附金で作られたことが、当館所蔵の資料で初めて判りました。



滋野村役場歴史的資料 第2期分 目録No.2039

当時の千円は、米価で計算すると現在のおよそ280万円に当たります。寄附金名簿筆頭の柳沢昇平氏は当時の滋野村長。柳沢平助氏は、戌立遺跡と寺ノ浦遺跡の発掘調査を指導した教育者で、大正12年には小県郡東部実科中等学校(現東御清翔高校)の初代校長を務めています。



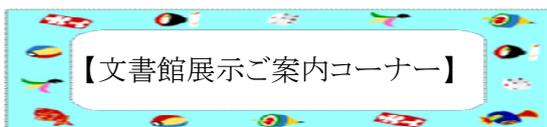
倒壊しかけた昭和の中頃の戌立遺跡保護屋蓋  
写真提供 高藤祐男氏(原口区在住)



その後、戌立遺跡の保護屋蓋施設は風雪で倒壊し、寺ノ浦遺跡の保護屋蓋施設は、落雷火事で焼失したとされています。現在は、昭和5年調査区域の南側に地元原口区が昭和63年に、佐久市下吹上(しもふきあげ)遺跡の「復元住居」を参考に建てた「復元住居」があります。

### 1982 花岡 弘 「戌立遺跡・寺ノ浦遺跡」

『長野県史 考古資料編 主要遺跡(北・東信)』参考



かしら(首)21体・キラ(衣装)・手足・胴体・浄瑠璃本28冊・背景大幕絵4枚など、総数219点の浄瑠璃関連資料です。かしらの裏に【人形忠】(注2)の焼印のある物が2点、【人形忠長男人形友】と手書された物が1点確認でき、阿波人形浄瑠璃の人形とされ、江戸末期の物も含まれると言われています。



人形忠作 人形忠長男人形友作 人形忠作

東御市文書館 民俗資料台帳No.778・779

市内新張(みはり)の柳沢氏が和(かのう)地区から入手し、新張周辺以外にも、上田市一帯・横鳥村(現立科町)・嬬恋村(群馬県)を廻り、武石村(現上田市)の御柱祭でも上演したと伝えられます。

現在、これ以上の詳細な内容は判っておらず、東御市文書館では情報収集をしています。どのような些細な事柄でも結構です。関連する情報をお持ちの方は東御市文書館・東御市教育委員会文化財係にご一報ください。

注2)人形忠(デコ忠)は、人形師本名清水忠三郎(1840～1912)の作で、阿波人形浄瑠璃の座や淡路の浄瑠璃人形に遺されています。

引用参考文献・1923 『上田小県誌 第五巻』 p605～607 ・『東部町誌 民俗編』p371～372